

今後の収支見通し及び対応策の検討について

1 要旨

本水道企業団は、基本理念に掲げる持続可能な水道事業の実現に向けて、「広島県水道広域連合企業団広域計画」に基づき、スケールメリットなどの統合メリットを活用しながら様々な取組を進めている。

しかしながら、建設資材や人件費の高騰など、水道事業経営を取り巻く環境は厳しさが増しており、こうした状況変化に的確に対応しつつ持続的な事業運営を行うため、今後の対応策と収支見通しを検討するとともに収支計画としてまとめる。

2 これまでの主な取組

(1) 主要プロジェクト

- ・ 三次市-庄原市緊急連絡管、三次市-安芸高田市緊急連絡管の整備完了(R6.3)
- ・ 宮島海底送水管の工事開始(R8.3完成予定)

(2) DXの推進

- ・ 広域運転監視システムの仮稼働開始(水道用水供給事業、工業用水道事業の施設で、R5年度:2施設、R6年度:3施設、R7年度:4施設)
- ・ スマートメーターの試験導入(R5.11三次市君田町の一部)
- ・ AIを活用した薬品注入自動化システムをテスト導入し安全性の検証中

(3) 適切な水質管理の推進

- ・ すべての浄水場で有機フッ素化合物(PFAS)の検査を実施

(4) 事務の効率化

- ・ 決算事務を本部に集約し、各事務所の負担軽減と事務の効率化を実現
- ・ 浄水場等で使用する薬品の一括発注による調達コスト縮減と発注業務の効率化に向けた取組を開始

(5) プロパー職員の採用

- ・ 令和8年4月の職員採用に向けて、水道企業団HPに専用サイトを開設(R6.10末予定)

3 背景と検討理由

- 令和4年11月の水道企業団設立以降、円安を背景とした物価高騰やマイナス金利の解除など、水道事業を取り巻く経営環境は厳しさが増しており、主要プロジェクト※と位置付けている大型工事や施設の維持管理など、今後の水道事業の運営に影響が生じる状況になっている。(※広域浄水場の新設による浄水場の統廃合など、新たな水運用を実現させるための施設整備)

【令和4年度に作成した収支シミュレーションからの変化】

物価上昇率 0% → 0.9%(内閣府「中長期の経済財政に関する試算」)
企業債利息 1.0% → 1.9%(令和6年度国債想定金利)
基本設計を踏まえた、主要プロジェクト建設工事費の増額

- 令和 5 年度の市町水道事業の決算の状況を見ると、経常収支比率が 107.0%で健全経営の水準とされる 100%を上回っているものの、料金回収率が 92.9%で給水に係る費用が給水収益を上回っている。
- 将来にわたって水道事業を維持するためには、これらの状況変化に対し、事業経営の見通しを立て、必要な対応を早期に講じていくことが重要であり、今後の対応策と収支見通しを早期に検討する必要性が生じている。

4 検討内容

- 令和 5 年度から令和 14 年度（広域計画期間）の 10 年間の収支見通し
 - ・ 物価上昇率や主要プロジェクト建設工事費の増額など、現下の状況を踏まえて推計
- 収支改善に向けた対応策の検討
 - ・ 施設整備については、広域計画に掲げる基本的な考え方を踏襲しつつ、危機管理対策の視点や市町の実情を踏まえた精査を行うこととし、事業費の増加が事業収支に与える影響が大きいことから、先行して検討を進める。
 - ・ その他、情報システムの整備・更新の費用対効果等を踏まえた見直し、業務の標準化・共通化による運営コストの縮減などの支出の抑制・適正化や、未収債権の回収促進、国交付金等の外部資金の獲得や効果的な企業債の発行などの収入の確保・適正化を検討し、収支計画に反映する。
- 収支計画の策定
 - ・ 今後の収支見通しと収支改善に向けた対応策を踏まえて、令和 7 年度に収支計画としてまとめる。

5 検討スケジュール

令和 6 年 10 月～	収支見通し及び収支改善策の検討
令和 7 年 1 月全員協議会	検討状況の報告
令和 7 年 1 月定例会	可能なものから令和 7 年度当初予算案に反映
令和 7 年度	収支計画の策定